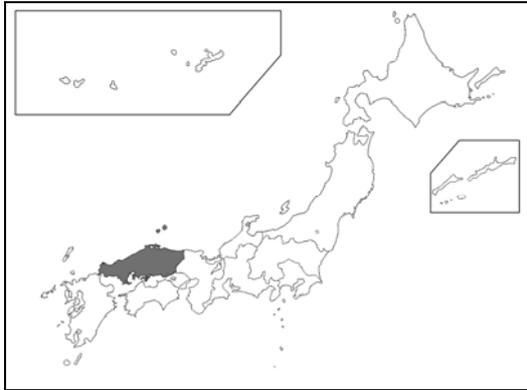


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

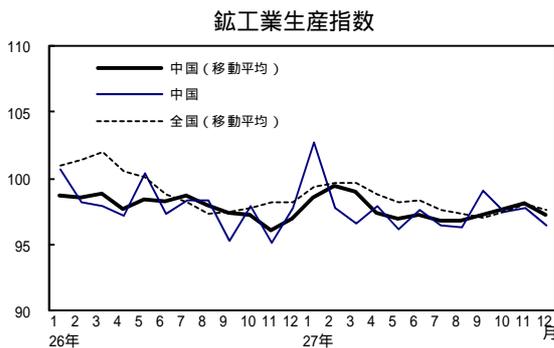
前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年11月)	今回(平成28年2月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

10~12月期には、輸送機械は、自動車の海外販売が好調で、高水準の生産が続き増加した。化学は、生産プラントの定期修理の影響などから減少した。はん用・生産用・業務用機械は、全体として高操業が続くが、建設機械の減産などからやや減少した。鉄鋼は、在庫調整の進展などから増加した。電子部品・デバイス、海外向けの一部に弱い動きがみられ、やや減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.5	3.8	2.5	5.8	1.3	5.7
化学	16.4	8.5	2.1	8.3	3.7	0.9
はん用・生産用・業務用機械	11.2	14.5	0.7	3.8	11.2	7.2
鉄鋼	7.7	2.1	2.4	2.0	2.9	0.2
電子部品・デバイス	7.1	3.2	0.7	4.1	3.8	0.2
鉱工業	100.0	0.0	0.0	1.5	0.2	1.2

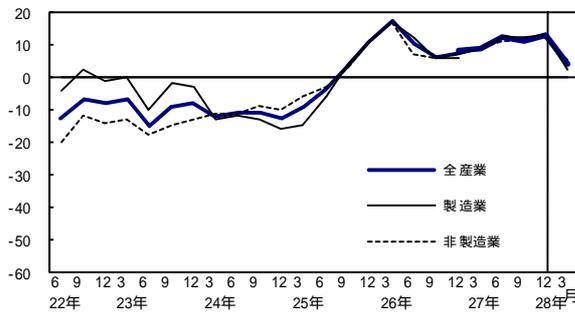
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期、12月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

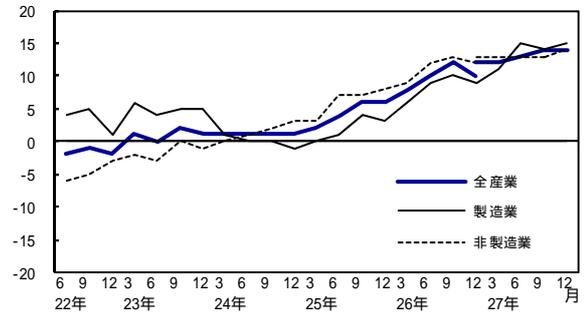
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



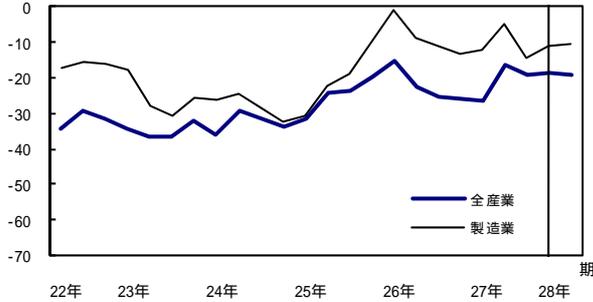
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



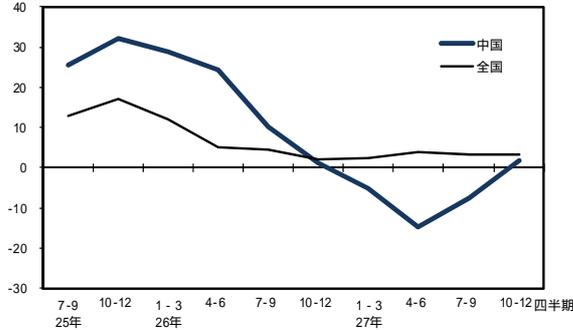
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「前回から状況に変化はなく、各社最低限の仕事量を確保すべく、市況に合わせて低採算で受注している状況である(鉄鋼業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	8.4	13.8 (6.0)
製造業	13.8	5.9 (1.6)
非製造業	1.6	25.0 (16.8)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.2%増、11月は同1.9%減、12月は同1.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額

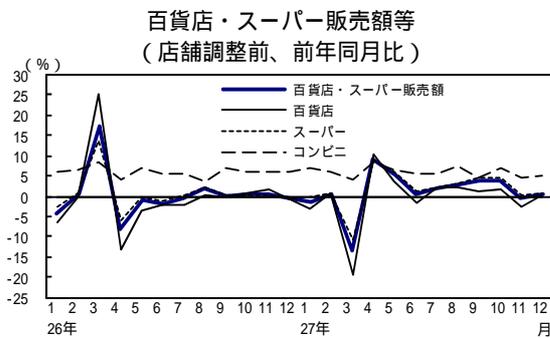
百貨店は、10月は、衣料品を除いて前年を上回った。11月は、化粧品、時計などの販売は引き続き好調であったが、気温が高かった影響で主力の衣料品の販売が不振で前年を下回った。12月は、暖冬の影響で衣料品の販売が低調であったが、飲食料品などの販売が好調で、前年をやや上回った。

スーパーは、冬物衣料品の販売は不振であったが、精肉や野菜など生鮮食品の価格上昇で飲食料品の売上が引き続き伸びており、前年同期を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[家計動向関連(現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、48.7となり前月より3.7ポイント低下した。

「12月は他の月に比べて少し良かったが、今月は来客数が減少するとともに、売上単価が低下している。景気が悪いせいか客も使用金額を低く抑えている(スナック)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

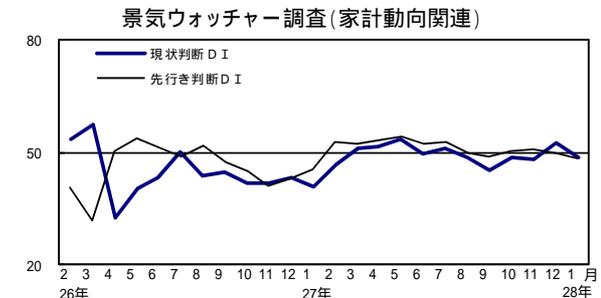
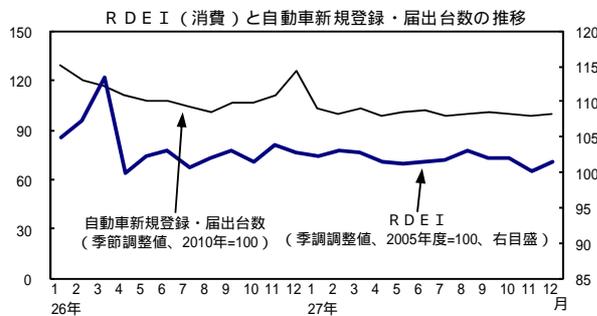


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.9	0.2	1.9	1.4
百貨店・スーパー(*2)	1.2	3.9	0.5	0.6
百貨店(*2)	0.4	1.8	2.8	0.1
スーパー(*2)	1.8	4.8	0.4	0.7
コンビニ(*2)	5.6	6.9	4.6	5.2
乗用車(*3)	13.1	6.9	10.2	21.0
(季節調整値)(*3)	0.2	0.4	1.8	1.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

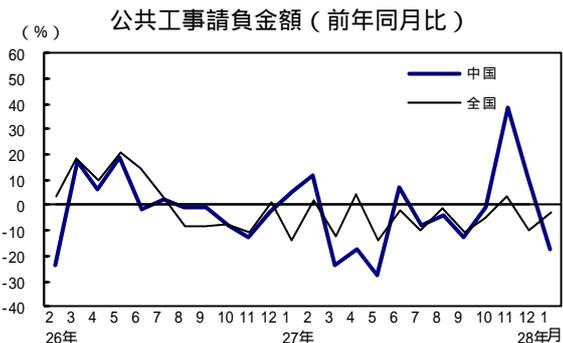
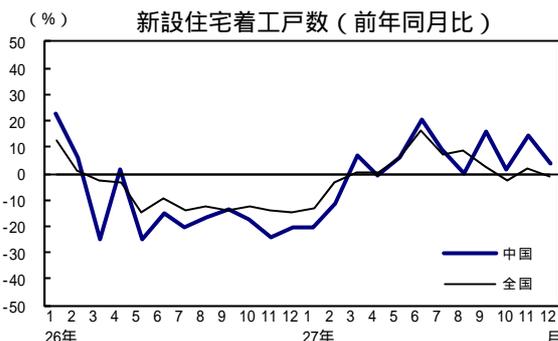
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計で見ると前年度を下回っている。

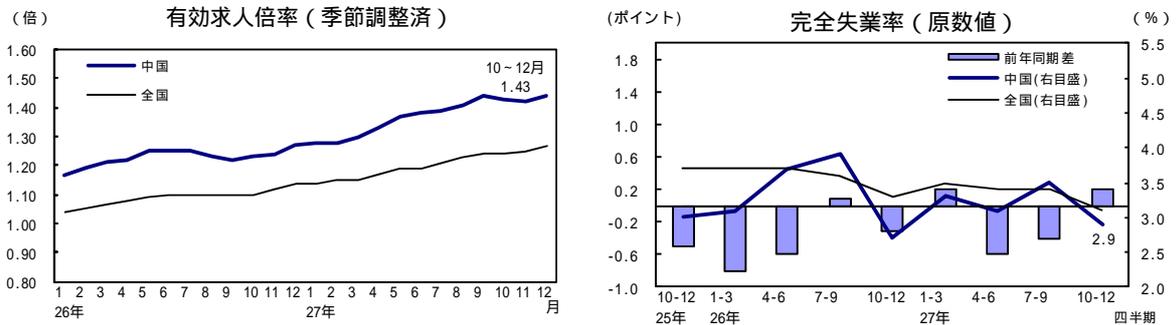


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連 (現状)]

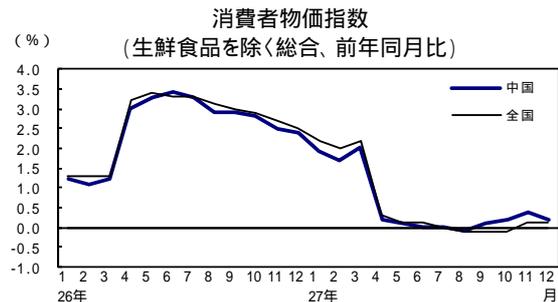
「年明けから求職者の動きが活発となり、マッチング件数が増えている。また、在職中の人からも4月には転職したいなどの相談があり、今後もこの動きは続きそうである(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	119	92	87	85	26
(前年比)	2.5	16.4	19.4	20.6	25.7
負債総額	265	163	91	131	55
(前年比)	24.3	0.1	46.4	29.7	13.2



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・暖冬傾向で年初は人出が多かったが、後半の寒波で帳消しとなっている(テーマパーク)

<先行き>

・桜シーズンに向けてインバウンド客の先行受注は昨年を上回る勢いで増加しており、ディスプレイキャンペーンの開催や瀬戸内国際芸術祭の開催など、春のイベントの開催が活発となり、需要は確実に増加する(都市型ホテル)

